

論点整理案について

産業構造審議会 2021年7月1日
株式会社LITALICO/ 国士舘大学
博士（障害科学）
野口 晃菜

議論の前提

- 議論の前提2：「深刻さの度合いを増す不登校問題や、社会的にも認知されるようになった発達特性への対応、家庭の経済格差や子どもへの貧困問題への対応などを前提に組み込んで考えたい」→大賛成。
- 「未来の教室」は多様な子どもたちがいることを前提としたインクルーシブな教育を目指していることを明記するのがどうか。今のままだと、「一部の『できる』子どもたち」が対象になっているようにも見える。
- 以下の子どもたちも学校で学んでいることを前提にしたい。
 - 知的障害、身体障害、視覚障害、聴覚障害、性的マイノリティ、外国ルーツ、病弱、非行、etc

インクルーシブ教育システムの構築

- 障害者権利条約の批准（2014）
- インクルーシブ教育システム構築に関する報告（2012）

● 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告） 概要

はじめに

障害者の権利に関する条約の国連における採択、政府の障害者制度改革の動き、中央教育審議会での審議、障害者基本法の改正等について記述

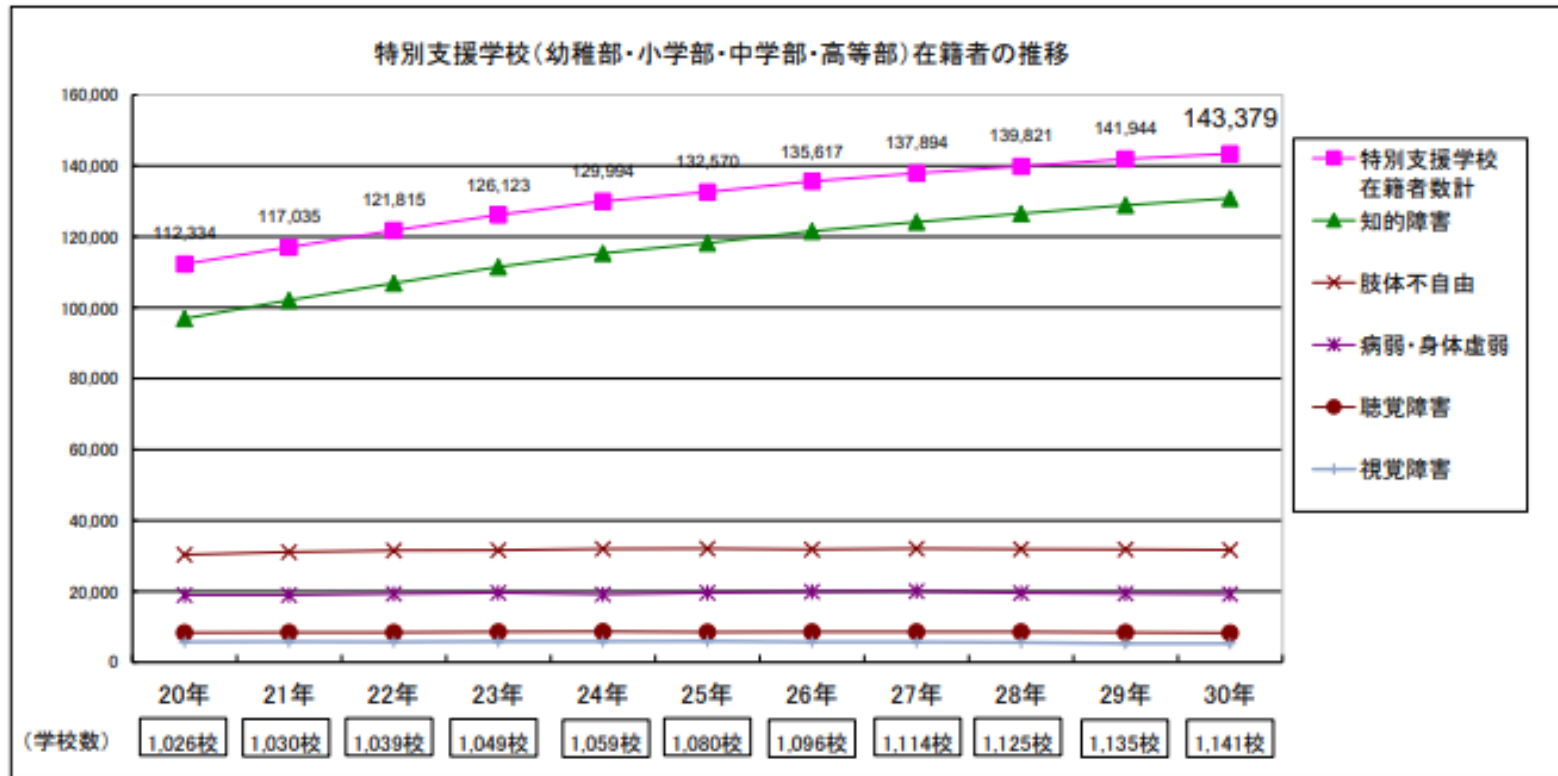
1. 共生社会の形成に向けて

(1) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

- 「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。
- 障害者の権利に関する条約第24条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system、署名時仮訳：包容する教育制度)とは、人間の多様性の尊重が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学び、障害のある者が「general education system」(署名時仮訳：教育制度一般)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、合理的配慮が提供される等が必要とされている。
- 共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要がある。

特別支援学校在籍率は年々増加（文科省資料から）

特別支援学校の児童生徒数・学校数の推移（各年度5月1日現在）

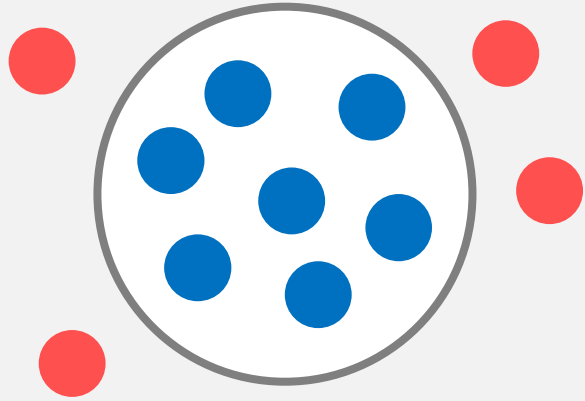


<30年度の状況>

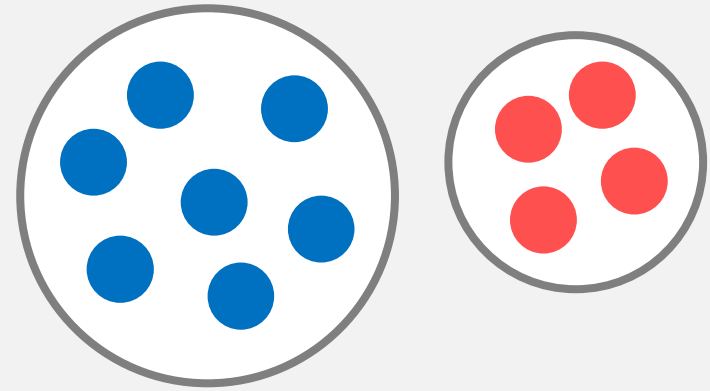
	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学校数	81	117	781	350	152	1,141
在籍者数	5,315	8,164	130,817	31,676	19,277	143,379
教員数(本務)	2,801	4,144	51,101	15,181	3,250	76,477
(兼務)	311	372	3,126	1,054	237	5,100

※在籍者数は、平成18年度までは在籍する学校の障害種別により集計していたため、複数の障害を有する者については、在籍する学校の障害種別以外の障害について集計していません。平成19年度より、複数の障害種別に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害を有する者については、障害種のそれぞれに集計している。このため、障害種別の在籍者数の数値の合計は計と一致しません。

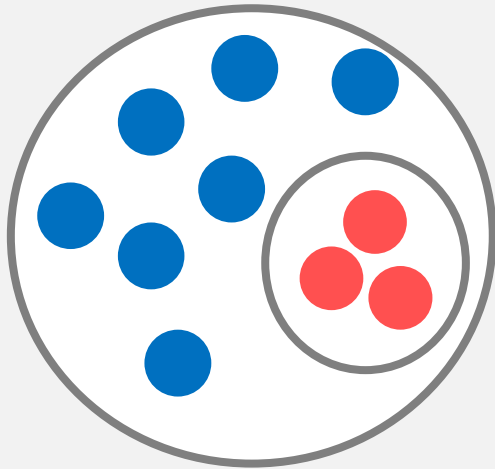
※学校数は、平成19年度より、複数の障害種別に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害に対応する学校については、それぞれの障害種別に集計している。このため、障害種別の学校数の数値の合計は計と一致しません。



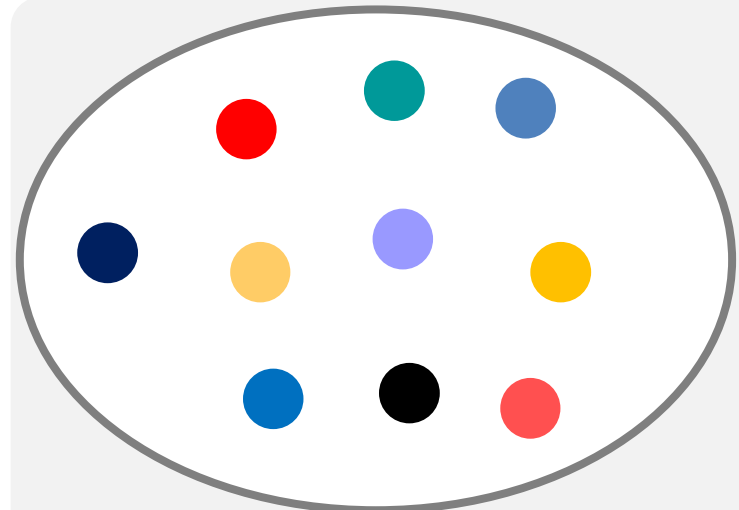
エクスクルージョン (排除)



セパレーション (分離)



インテグレーション (統合)



インクルージョン (包摂)

ポイント

- 現行の通常の教育にプラス α をしたり、通常の教育に子どもたちを合わせるための特別支援教育、ではなく、通常の教育そのものを多様な子どもたちがいることを前提に再構築していく。
- そのためにこれまで培ってきた特別支援教育におけるノウハウを活用していく。

教育課程の話

- 「特別」を「普遍」にするためには、現行の教育課程をより柔軟に編成できるようにする必要がある。
- 現状：通常の学級→通常の教育課程、特別支援教育→「特別の教育課程」。特に知的障害のある子どもは通常の学級に在籍しづらい。
- どのように制度を変えたら教育の場にかかわらず、より一人ひとりのニーズに合った教育課程を組めるのか？

個別学習計画と学習ログについて

- 個別学習計画の目的を確認したい
 - 自己理解（※当事者研究を参考に）
 - 主体性・自己決定
 - 問題解決
 - 自分の学びに自分で責任を持つ
- 教科の目標設定と進捗を管理するのみでなく、より広義の計画になるとよいと考える
- （例：自分自身のWell-beingやメンタルヘルス、ソーシャル・エモーショナルラーニング、自分にとって一番効果的な学び方など）
- （※特別支援教育の自立活動のノウハウなどを参考に）



個別支援計画サポートシステム

ICT を活用し、障害のある子どもへの個別化した教育の提供をサポート



①多面的なアセスメント
(行動やスキル等)



②目標と指導のポイント
をレコメンド



③目標に応じた教材や
プログラム、指導動画を提示

- アセスメントに基づく個別支援計画の作成に関し、専門的な見地からのレコメンドにより計画と指導内容の質的水準を確保
- 計画作成や教材作成に関する支援者の負担軽減
- 将来的には学校・家庭での様子、医療や福祉機関の記録を集約し情報共有を効率化

学び方の多様性



メンタルヘルス



しゅくどく
宿題

いっしゅうかん しん しん じょうたい き ろく
1週間の心身の状態を記録しよう

じゅんび
準備

あす いっしゅうかん ひつじ ぎろくび じにせう
明日から1週間の日付を「記録日」に記入しましょう

しゅくどく
宿題

ひ しんしん じょうたい いっしゅうかん きろく
その日の「できごと」と「心身の状態」を1週間、記録しよう

しゅくどく 記録日	できごと	しんしん じょうたい 心身の状態
れい 5/25 (月)	習い事に行った。うまくピアノを弾けた。	<input type="checkbox"/> とても元気 <input checked="" type="checkbox"/> まあいい感じ <input type="checkbox"/> やや疲れた <input type="checkbox"/> ぐったり
/ ()		<input type="checkbox"/> とても元気 <input type="checkbox"/> まあいい感じ <input type="checkbox"/> やや疲れた <input type="checkbox"/> ぐったり